

地域密着型サービス外部評価結果報告書

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会が実施した下記の事業所の外部評価の結果をご報告します。
この報告を貴事業所におけるサービスの質の向上に向けた取り組みの一助としてご活用いただき、地域における認知症等高齢者の生活・介護等の拠点として一層ご活躍されることをご期待申し上げます。
また、本報告書は、以下のような場面などでご活用ください。

- ・ 利用申込者またはその家族に対する重要事項等の説明
- ・ 事業所内の見やすい所への設置または掲示
- ・ 運営推進会議など関係者への説明

法 人 名	株式会社 ケアふくい
代 表 者 名	代表取締役 金具 芳樹
事 業 所 名	グループホームはないろ
評 価 確 定 日	2021/8/27

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891600049		
法人名	株式会社 ケアふくい		
事業所名	グループホーム はないろ 2F		
所在地	福井県吉田郡永平寺町松岡薬師1-149		
自己評価作成日	令和 3年 7月 11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 3年 7月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年10月にオープンした新しい施設です。1階には地域交流スペースを設け、地域の方と交流できる環境を整えています。現在は新型コロナウイルスの影響で、交流する事は難しいですが、新型コロナウイルスが落ち着き暁には、地域の方と交流できる催しをしたいと考えています。また厨房も完備されており、厨房スタッフが作った手作りおやつは利用者様に好評です。グループホームでは利用者様がそれぞれしたい事(塗り絵、パズル、計算問題、オセロ等)をして、自由に過ごされています。新型コロナウイルスの影響で、面会や外出が行えない分、4階にある屋上で景色をみて頂いたり、近所の公園まで散歩をしたり、ドライブをしたり、一人暮らしの方には自宅を見に行く機会を設ける事で、気分転換をして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は平成28年に開所した小規模多機能型居宅介護とグループホームはないろの隣に、昨年オープンした4階建てで、2階と3階に事業所がある。入所希望者が多く地域住民の要望で新設した。建物1階は明るく開放的で、地域住民が多目的に利用できる地域交流ホールを設けている。永平寺町は、町長自ら防災に力を入れており、災害時の協定を結んだ松岡東幼稚園の避難場所に本事業所を指定している。調査当日は園児の避難訓練を開催しており、町長・町職員・消防隊員・施設職員参加で実施し、交流ホールを活用していた。事業所は毎週木曜日を利用者の要望を叶える日とし、コロナ禍の中でも要望を叶えるべく工夫している。新設の事業所ではあるが、管理者、職員の関係がとてよく、一丸となって利用者、家族の支援にあたっている。法人理念の挑戦・信頼・知恵を職員間で共有し、実現に向けて努力する姿勢があり、成長が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	令和2年10月オープン。 新人教育、日々の業務で、理念の共有、実践まではできていない。	各フロアのエレベーターを降りた正面に理念を掲げており、各自理念を基に自己目標を掲げて業務にあたっている。職員間で理念を共有し、事業所としての独自の目標を策定することで実施に向けて努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、オープン以降地域との交流は行えていない。 利用者と近くの公園に散歩に行く際、近所の人と挨拶を交わす等の交流はある。	自治会に加入している。施設の共用空間を活用して、近くの幼稚園の避難訓練に活用している。地区の民生委員の集会も予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けては活かしていないが、入所申し込みで訪れたご家族様の不安に寄り添い、アドバイスできる事があれば伝えるよう努力はしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年10月オープン。 令和2年10月に1度行ったが、それ以降は新型コロナウイルスの影響で開催できていない。	定期開催を予定していたが、開催できないため、現状報告・活動内容・利用者の状況・アクシデント報告・取組みについて書面で参加予定者に送っている。家族には報告していない。	コロナ禍の中、一堂に会して意見を聞く機会を持たない状況でも、参加者や家族から意見を聞く工夫をし、運営に反映することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を密に取っているとは言えないが、分からない事があれば質問し教えて頂いている。	運営推進会議時に町役場福祉保健課担当者に制度等の相談、地域包括支援センターへは、困難事例の相談をしている。協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同一法人の事業所と協力し勉強会を開催している。身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、家に帰りたいという気持ちから入口を探し歩き回る方が多く、フロア入口の施錠をしてしまう事もある。玄関の施錠は、防犯目的で19時半～5時までしている。	身体拘束、スピーチロックについて話し合いを持っている。出入り口は施錠せず、職員が耳でも確認できるようにベルを取り付けている。利用者が施設外に出かけた場合には、町ネットワーク配信中で捜索に協力してもらえ関係であり、利用者の鞆には本人確認ができる名札を入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一法人の事業所と協力し勉強会を開催している。虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。また、職員の言葉遣いにも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	令和2年10月オープン以降はこのような研修はできていない。同一法人の事業所から移動してきた職員の中には学んだ職員もいるが、新人職員は理解できていない。現在対象者も居ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っている。説明後、疑問点等がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々の業務の中で確認している。ご家族様には、面会時や電話連絡の時に確認している。	コロナ禍の中で、家族との面会は窓越しや、ベランダを活用して行い、利用者の受診時に、直接意見を聞いたり、電話で要望を聞いている。LINEも活用して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議や面談の中で確認している。運営に関する事まで希望する職員は現時点では居ないが、日々の業務の中で「こうしたい」等の希望は話してくれている。	日頃から思ったことを言える関係ができています。職員が出した課題について、月1回会議を開催している。職員が日々の気づき、意見を出しやすいような工夫を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週数回、管理者と話す機会を設け、職員個々の努力や勤務状況を把握する時間を設けている。また、可能な限り現場を訪れ、職員と話す機会を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望者には研修に参加してもらっている。また、法人内勉強会を開催し、職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の地域密着型事業所が集まり意見交換をする場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言葉には最大限耳を傾け、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、管理者が家族の要望等を確認している。また面会時にも積極的に話しかけ、要望等がないか確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要とする支援に対応できるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみ等、利用者ができる事はしてもらっている。レクリエーションや行事は職員も一緒に楽しみ、笑いあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆は大切にしている。施設に入っても、受診の付き添い等は家族に依頼し、利用者の生活を支えてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしたい事の一つだが、外出禁止の中で、行きつけの美容室等に行く事は難しく対応できていない。ただ、友達からの電話をつないだり、親類の方へ電話したりはしている。	本人、家族、在宅ケアマネジャーから聞き取った情報を記録している。利用者との日頃の会話から、馴染みの関係、場所などを知り、手紙を書いたり、ドライブに出かけるなど支援につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中には相性が悪く喧嘩してしまう利用者も居る為、席を変更したり、レクリエーションでは同じグループにならないように配慮している。利用者によっては他利用者との関わりを望まない方もいる為、その方には職員が関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	令和2年10月オープン。 現時点でサービス利用が終了した方は居ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向は把握している。把握できない利用者には家族に話を聞き検討している。どうしても家族本位になってしまう事もある。	毎週木曜日は、利用者の望みを叶える日に決めている。日頃の要望をこの時に実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅のケアマネージャーや家族に聞き取りを行い、把握できるように努めている。生活の中で本人が思い出話ししてくれる事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握はできている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し現状を把握している。変化等がある場合は、毎月のミーティングの議題にあげ話し合っている。	入所時の会議・毎朝の気づきの申し送り・毎月のモニタリングとフロア会議で情報を共有し、ケアマネージャーが立てた計画に沿って介護計画を実施している。変化がなければ計画の見直しは3~6か月で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を記録している。写真があった方が分かりやすい事に関しては写真も貼りつけている。業務日誌や毎日の申し送りでも情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者と職員で話し合い、利用者にとってより良い支援とは何かを話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で、社会資源の活用は、移動美容室のみになっている。地域交流スペースという場も設けている為、新型コロナウイルスが落ち着いたらボランティアさんの受け入れ等も積極的に行っていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には在宅に居た時のかかりつけ医を引き継ぎ、家族付き添いで定期受診している。利用者によっては訪問診療で対応している方も居るが、全て利用者や家族の希望を反映している。	入所後も変わらずにかかりつけ医との関係を継続している。受診が難しくなった場合、近くの永平寺町在宅訪問診療所から往診を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況に変化が見られた場合は、看護師に相談し、指示を仰いでいる。受診が必要であれば、家族に報告し、受診して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が入院先や家族と連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で、家族と利用者双方に看取りの希望の確認をしている。	同じ敷地の事業所から異動してきた看取りの経験がある職員も加わり、終末期の対応に備えている。本人・家族に契約書の看取りの指針を説明し、看取りの意向確認を書面で行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生のやり方、AEDの使い方の講習は定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と協力しながら避難訓練を行っている。近所の幼稚園と災害時の協定を結んだ為、幼稚園の訓練にも協力している。	町をあげて防災に力を入れている地域で、町長自ら訓練に参加している。非常食等は、行政からの支援を待つ体制になっている。10月に大きな訓練を実施予定である。	災害訓練時から地域住民が協力しやすい体制が取れることを期待する。施設で水、非常食、備品等の準備を進めていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しての言葉掛けには配慮している。また、排泄介助や更衣時は、プライバシーに配慮し、入口の扉を閉め対応している。	利用者に合わせて、プライバシーに配慮して声掛けをしている。年間研修計画のテーマにあげて、研修後は他の職員への伝達研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を尊重する為、入浴順番を配慮したり、入浴の準備を一緒にして、好きな服を選んでもらったりしている。難しい事が決められない方でも、温かいお茶が良いか冷たいお茶が良いか等、簡単な事でもいいので、利用者が自己決定できる機会を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアで過ごす日もあれば、居室で休みたい日もある。その日その日の利用者の体調や希望に応じ生活して頂いている。レクリエーションも参加したくない場合は、見学する事も選択肢の一つにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際、自分で選んで頂いたり、一人で選べない場合は、職員と着たい服を選んでる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事の調理は厨房で行っているが、利用者が食べたい物や季節特有の物を、行事等で一緒に作り、楽しみながら食べている。	1階の厨房で調理をして、各階で温めなおして利用者と一緒に食器に盛り付けている。各階のキッチンで行事食の調理と、簡単なおやつ作りもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月初めの体重測定や受診時の血液検査で低栄養になっていないか確認している。また、水分量が少ない利用者には、声掛け促しを行う事で摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。磨き残しがある場合は、職員が介助し、口腔内の清潔を保っている。また、義歯を使用している方には、毎晩洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意が曖昧な利用者には定時誘導を行い失禁を予防している。排泄パターンが分かるよう、排泄チェック表の記入方法を変更し、より良い誘導時間やパッドの大きさを検討している。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表で排泄パターンを把握して、利用者の状態に応じてさり気ない声掛け誘導で自立支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳の提供。排便困難者への、きな粉オリゴ牛乳の提供等、便秘解消に取り組んでいるが、下剤を使用する事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の希望により入浴日を変更する事はある。また、入浴順番も、その日の希望や状況によって変更する事がある。	木曜日以外は毎日入浴日となっており、利用者の希望で入浴順番、入浴日を変更できる。個浴を利用できない状態の人はリフト浴での入浴ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は各利用者によって異なっている。また日によっても異なる為、それぞれのタイミングで休んで頂いている。日中の活動量を増やす事で、夜間の安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はすぐ確認できるよう、薬箱の中とカルテの中に綴っている。内服内容に変更があった場合は、業務日誌に記載し、申し送りの際に情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人好きな事は異なるので、塗り絵をする人、パズルをする人、紐通しをする人等、それぞれの好みに応じ、個別レクを行っている。また、季節の行事や散歩、ドライブ等で気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、外出はドライブ(車内から景色を見たり、人混みを避け、車から降りたり)のみ。散歩や屋上散歩はしている。また、一人暮らしの人(人が自宅に居ない為)は自宅への外出も行っている。	コロナ禍の対応として、外出は平日の人混みのない場所を選んでいる。週1回希望を叶える日に利用者の要望を聞いてドライブ、散歩のコースを決めている。外出できないときは施設の屋上から自然豊かな景色を見て気分転換を図れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は預り金として施設で管理しており、必要な物はそこから購入している。利用者によっては財布を所持している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルスの影響で面会ができない分、希望者には電話をして頂いている。また、利用者によっては携帯を所持している方もいる為、携帯の使い方の説明を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示物を掲示している。また行事の写真を展示している。冷暖房や加湿器を使用する事で、居心地の良い空間作りを心掛けている。	共用空間は明るく広々として、テーブルと椅子を設置し、ゆったり過ごすことができる。職員と利用者が作った掲示物を貼っており、暖かみがあり、季節感を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者と隣同士になれるよう座席を検討している。一人で過ごしたい時には自室にて休んで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していたタンスや馴染みの物、写真等を持ってきて頂いている。また、必要に応じ、テレビ等を持ってきている方も居る。	居室入口に、木製の名札や目印の物があり、自分の部屋が確認できるようになっている。居室内からコールボタンを押すと、廊下のライトがついて職員に知らせることができる。備え付けのベッド、タンス以外に自宅から馴染みの物を持ち込むことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、手すりがない場所には椅子などを置く事で、動線を確保し安全に移動できるように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891600049		
法人名	株式会社 ケアふくい		
事業所名	グループホーム はないろ 3F		
所在地	福井県吉田郡永平寺町松岡薬師1-149		
自己評価作成日	令和 3年 7月 11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 3年 7月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年10月にオープンした新しい施設です。1階には地域交流スペースを設け、地域の方と交流できる環境を整えています。現在は新型コロナウイルスの影響で、交流する事は難しいですが、新型コロナウイルスが落ち着き際には、地域の方と交流できる催しをしたいと考えています。また厨房も完備されており、厨房スタッフが作った手作りおやつは利用者様に好評です。グループホームでは利用者様がそれぞれしたい事(塗り絵、パズル、計算問題、オセロ等)をして、自由に過ごされています。新型コロナウイルスの影響で、面会や外出が行えない分、4階にある屋上で景色をみて頂いたり、近所の公園まで散歩をしたり、ドライブをしたり、一人暮らしの方には自宅を見に行く機会を設ける事で、気分転換をして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2Fユニットと同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	令和2年10月オープン。 新人教育、日々の業務で、理念の共有、実践まではできていない。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、オープン以降地域との交流は行えていない。 利用者と近くの公園に散歩に行く際、近所の人と挨拶を交わす等の交流はある。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けては活かせていないが、入所申し込みで訪れたご家族様の不安に寄り添い、アドバイスできる事があれば伝えるよう努力はしている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年10月オープン。 令和2年10月に1度行ったが、それ以降は新型コロナウイルスの影響で開催できていない。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を密に取っているとは言えないが、分からない事があれば質問し教えて頂いている。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同一法人の事業所と協力し勉強会を開催している。身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、家に帰りたという気持ちから入口を探し歩き回る方が多く、フロア入口の施錠をしてしまう事もある。玄関の施錠は、防犯目的で19時半～5時までしている。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一法人の事業所と協力し勉強会を開催している。虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。また、職員の言葉遣いにも注意を払っている。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	令和2年10月オープン以降はこのような研修はできていない。同一法人の事業所から移動してきた職員の中には学んだ職員もいるが、新人職員は理解できていない。現在対象者も居ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っている。説明後、疑問点等がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々の業務の中で確認している。ご家族様には、面会時や電話連絡の時等に確認している。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議や面談の中で確認している。運営に関する事まで希望する職員は現時点では居ないが、日々の業務の中で「こうしたい」等の希望は話してくれている。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週数回、管理者と話す機会を設け、職員個々の努力や勤務状況を把握する時間を設けている。また、可能な限り現場を訪れ、職員と話す機会を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望者には研修に参加してもらっている。また、法人内勉強会を開催し、職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の地域密着型事業所が集まり意見交換をする場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言葉には最大限耳を傾け、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、管理者が家族の要望等を確認している。また面会時にも積極的に話しかけ、要望等がないか確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要とする支援に対応できるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみ等、利用者ができる事はしてもらっている。レクリエーションや行事は職員も一緒に楽しみ、笑いあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆は大切にしている。施設に入っても、受診の付き添い等は家族に依頼し、利用者の生活を支えてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしたい事の一つだが、外出禁止の中で、行きつけの美容室等に行く事は難しく対応できていない。ただ、友達からの電話をつないだり、親類の方へ電話したりはしている。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中には相性が悪く喧嘩してしまう利用者も居る為、席を変更したり、レクリエーションでは同じグループにならないように配慮している。利用者によっては他利用者との関わりを望まない方もいる為、その方には職員が関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	令和2年10月オープン。 現時点でサービス利用が終了した方は居ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向は把握している。把握できない利用者には家族に話を聞き検討している。どうしても家族本位になってしまう事もある。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅のケアマネージャーや家族に聞き取りを行い、把握できるように努めている。生活の中で本人が思い出話ししてくれる事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握はできている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し現状を把握している。変化等がある場合は、毎月のミーティングの議題にあげ話し合っている。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を記録している。写真があった方が分かりやすい事に関しては写真も貼りつけている。業務日誌や毎日の申し送りでも情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者と職員で話し合い、利用者にとってより良い支援とは何かを話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で、社会資源の活用は、移動美容室のみになっている。地域交流スペースという場も設けている為、新型コロナウイルスが落ち着いたらボランティアさんの受け入れ等も積極的に行っていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には在宅に居た時のかかりつけ医を引き継ぎ、家族付き添いで定期受診している。利用者によっては訪問診療で対応している方も居るが、全て利用者や家族の希望を反映している。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況に変化が見られた場合は、看護師に相談し、指示を仰いでいる。受診が必要であれば、家族に報告し、受診して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が入院先や家族と連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で、家族と利用者双方に看取りの希望の確認をしている。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生のやり方、AEDの使い方の講習は定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と協力しながら避難訓練を行っている。近所の幼稚園と災害時の協定を結んだ為、幼稚園の訓練にも協力している。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しての言葉掛けには配慮している。また、排泄介助や更衣時は、プライバシーに配慮し、入口の扉を閉め対応している。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を尊重する為、入浴順番を配慮したり、入浴の準備を一緒にして、好きな服を選んでもらったりしている。難しい事が決められない方でも、温かいお茶が良いか冷たいお茶が良いか等、簡単な事でもいいので、利用者が自己決定できる機会を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアで過ごす日もあれば、居室で休みたい日もある。その日その日の利用者の体調や希望に応じ生活して頂いている。レクリエーションも参加したくない場合は、見学する事も選択肢の一つにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際、自分で選んで頂いたり、一人で選べない場合は、職員と着たい服を選んでる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事の調理は厨房で行っているが、利用者が食べたい物や季節特有の物を、行事等で一緒に作り、楽しみながら食べている。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月初めの体重測定や受診時の血液検査で低栄養になっていないか確認している。また、水分量が少ない利用者には、声掛け促しを行う事で摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。磨き残しがある場合は、職員が介助し、口腔内の清潔を保っている。また、義歯を使用している方には、毎晩洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意が曖昧な利用者には定時誘導を行い失禁を予防している。排泄パターンが分かるよう、排泄チェック表の記入方法を変更し、より良い誘導時間やパッドの大きさを検討している。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳の提供。排便困難者への、きな粉オリゴ牛乳の提供等、便秘解消に取り組んでいるが、下剤を使用する事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の希望により入浴日を変更する事はある。また、入浴順番も、その日の希望や状況によって変更する事がある。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は各利用者によって異なっている。また日によっても異なる為、それぞれのタイミングで休んで頂いている。日中の活動量を増やす事で、夜間の安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はすぐ確認できるよう、薬箱の中とカルテの中に綴っている。内服内容に変更があった場合は、業務日誌に記載し、申し送りの際に情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人好きな事は異なるので、塗り絵をする人、パズルをする人、紐通しをする人等、それぞれの好みに応じ、個別レクを行っている。また、季節の行事や散歩、ドライブ等で気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、外出はドライブ(車内から景色を見たり、人混みを避け、車から降りたり)のみ。散歩や屋上散策はしている。また、一人暮らしの人(人が自宅に居ない為)は自宅への外出も行っている。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は預り金として施設で管理しており、必要な物はそこから購入している。利用者によっては財布を所持している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルスの影響で面会ができない分、希望者には電話をして頂いている。また、利用者によっては携帯を所持している方もいる為、携帯の使い方の説明を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示物を掲示している。また行事の写真を展示している。 冷暖房や加湿器を使用する事で、居心地の良い空間作りを心掛けている。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者と隣同士になれるよう座席を検討している。一人で過ごしたい時には自室にて休んで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していたタンスや馴染みの物、写真等を持ってきて頂いている。また、必要に応じ、テレビ等を持ってきている方も居る。	2Fユニットと同じ	2Fユニットと同じ
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、手すりがない場所には椅子などを置く事で、動線を確認し安全に移動できるように努めている。		